



日・タイ被災者救援プロジェクト
希望へのこころ

Heart for Hope



活動実施期間： 2011年7月～2012年3月〔概要〕

世界各地で自然災害が頻繁に起こり、多くの犠牲者を出しています。タイ国では、2004年に大津波に襲われ、孤児となった子どもたちが大勢います。また2011年3月

11日には、東日本大震災が起き、ぼう大な犠牲者と被災者を出し、各種の産業が破滅状態に陥り、世界の経済事情にも影響を及ぼしてきています。さらにタイ国においては、9月以降から大洪水となり、地方の工業団地をはじめ首都バンコクでも甚大な被害を受けています。こうした相次ぐ自然災害により、大勢の子どもたちが家族を失ってしまったことに、胸が痛んでなりません。

プラテープ財団では、タイ国内の大津波発生直後から現地に職員を派遣して被災地の状況をつかみ、人々の復興事業に取り組んで来ました。日本で津波が起きた直後には、日本の皆さまから長年にわたって「教育里親」をはじめとする教育支援を受けてきたことをふまえて、スラム地区の人々と共に募金活動をスタートし、私たちに可能な限りの努力を続けて被災地の復興事業を応援していこうと決めました。

当財団が実施する日・タイ被災者救援プロジェクト『希望へのこころ』（Heart for Hope）は、2011年5月7日の奨学金授与式で、アートクラブの活動として地域の子どもたちが描いた絵画100点を会場に展示し、東日本大震災の皆さんを激励したことがきっかけです。展示作品の中から数点の絵を選び、被災者を励ますカードを印刷して販売し、収益金を『希望へのこころ』の活動に役立てることにしました。また8つの団体が協賛し、世界のアーティストたちから絵画を提供していただき、販売した収益金を活用して日本とタイ両国の津波孤児とタイの洪水被害に遭った子どもたちとの交流キャンプを実施するプランを立てました。

以下にプロジェクトの目的等、計画内容の詳細を記しております。皆さま方のご理解とご協力を得て、ぜひとも成功させたいと願っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。





〔目的〕

1. 世界のアーティストたちの真情に呼びかけて、東日本大震災の被災者たちを救援する
2. タイ国内の学生や市民が一体となって、東日本大震災とタイの洪水被害の人たちを救援する
3. 被災者たちの心に希望が生まれ、広がって行くよう激励し、支援する
4. 日本とタイ両国の津波孤児たちの交流活動を実施する

〔活動対象者〕 408人

- | | |
|---------------------|------|
| 1. アーティストグループ | 80人 |
| 2. 協賛者 | 250人 |
| 3. 活動調整スタッフ | 20人 |
| 4. 東日本大震災の孤児たち | 8人 |
| 5. タイ国の津波孤児たち | 25人 |
| 6. タイの洪水被害に遭った子どもたち | 25人 |

〔実施期間と実施時期〕

- ・ 2011年7月から2012年3月までの7ヶ月間
- ・ 絵画展示会（2012年3月10、11の2日間）
- ・ 日タイ両国の津波孤児キャンプをタイ国で実施（2012年3月下旬または8月の休暇期間中）



〔協賛する団体〕

1. 華僑大学
2. タイ・日留学生協会
3. VOICE TV
4. シーカーアジア財団
5. バーンターナムチャイ財団
6. セントラン・パタナー株式会社
7. シャンティ国際ボランティア会 (SVA)
8. ドゥアン・プラティープ財団

〔事業実施方法〕

各団体から代表者を出して担当していきます。

1. 実行委員長 ドクター・サン・ハティラット (ドゥアン・プラティープ財団)
2. 副実行委員長 スパワット氏 (タイ日留学生協会)
3. 副実行委員長 八木澤克昌氏 (SVA)
4. 事務局長担当 プラティープ・ウンソンタム秦 (ドゥアン・プラティープ財団)
5. 広報担当 ピチャヤーさん (Voice TV)

〔協賛者との連携〕

1. 絵画展示会場を提供していただく関係者と協力していく
2. 協賛者と連絡調整を行っていく
3. アーティストとの連絡とスポンサー (アーティストとの連絡は華僑大学が行い、スポンサーとの連絡はドゥアン・プラティープ財団が行う)

(ア) アーティストたち80人から絵画を進呈していただき、「Heart for Hope」展示会場でオークションにかけ、売上金を被災者への義援金とする

(イ) 展示会場に参列していただき、アーティストや子どもたちの絵の販売を開始

4. 事業実施に向けての広報活動

(ア) Voice TV が展示会に関する広報を担当

(イ) ドゥアン・プラティープ財団が招待状の送付やスポンサーへの依頼を担当し、ポスター、チラシ、作品集、ウェブサイトで情報を提供。さらに、報道関係者へ連絡。

*作品集は、500冊 (タイ語300冊、英語200冊)

(ウ) 会場準備 (ドゥアン・プラティープ財団担当)

- ・協賛者一同のミーティング
- ・クロントイ、生き直しの学校、パンガー県の子どもたちの絵画100点
- ・クロントイから15人、「生き直しの学校」カンチャナブリ校から5人の子どもたちが会場にて絵画のデモンストレーション
- ・当財団の活動紹介のボードを設置
- ・2日間の展示会式典、グリーティングカードの販売

5. Central World (セントラル・ワールド) にて式典

- ・2012年3月10日、11日に展示会を開催
- ・タイ国において日タイ両国の津波孤児キャンプを実施
2012年3月末又は8月 (休暇期間中)
- ・事業の評価

〔期待すべき効果〕

- ① 東日本大震災の被災者に対して義援金支援ができること
- ② アーティスト、大学生、一般市民、子どもたちと幅広い人々が社会活動に参加できること
- ③ 絵画を通して被災地の人々を激励できること
- ④ キャンプ交流活動を通して津波孤児たちを激励できること
- ⑤ 日・タイの友好親善に貢献できること



No. 1



No. 2



No. 3



No. 4



No. 5



No. 6



No. 7



No. 8



No. 9



No. 10



No. 11



No. 12



No. 13



No. 14



No. 15



No. 16



No. 17



No. 18



No. 19



No. 20



No. 21



No. 22



No. 23



No. 24



No. 25



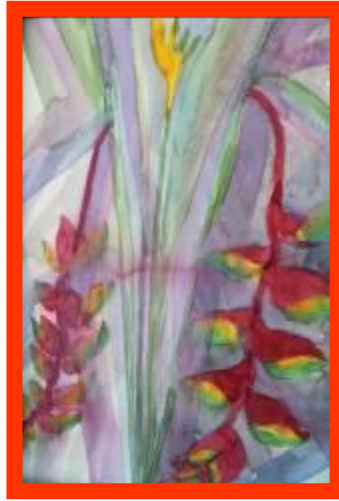
No. 26



No. 27



No. 28



No. 29



No. 30



No. 31



No. 32



No. 33



No. 34



No. 35